

1 単元名 おおいほう すくないほう

2 単元目標

- ・ 日常生活の生活場面での求大, 求小の問題に興味, 関心をもち, 進んで解こうとする。 【関心・意欲・態度】
- ・ たし算, ひき算の意味(使い方)について考え方を深める。 【数学的な考え方】
- ・ 求大, 求小の問題を解くことができる。 【表現・処理】
- ・ 求大, 求小のたし算, ひき算の意味について理解する。 【知識・理解】

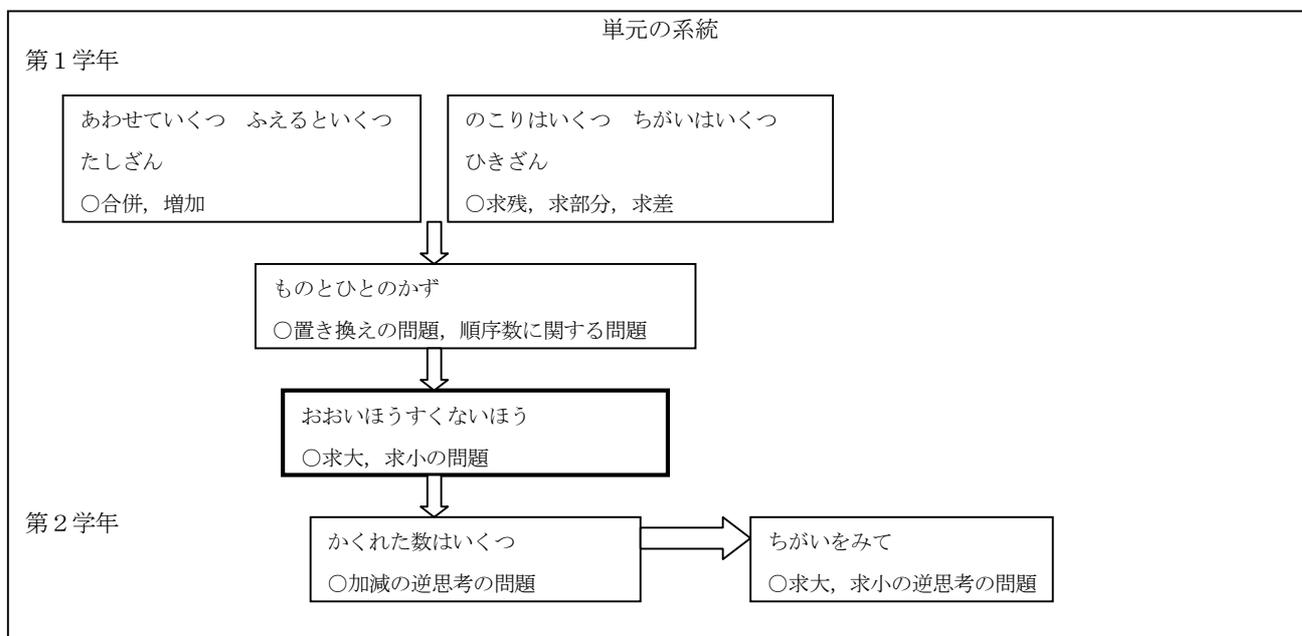
3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は学習指導要領「数と計算」領域のA(2)「加法及び減法の意味について理解し, それらを用いることができるようにする。」を受けて設定した。

本単元は, 大小2つの数量があつて, 小さい方の数量と差を知つて, 大きい方の数量を求める「求大」の問題と, 大きい方の数量と差から小さい方の数量を求める「求小」の問題から構成されている。

本単元では, 絵図を用いて違いがどこにあたるのかを考えていく。児童にとっては難しい単元の一つであると考えられる。絵図を使って, 1対1の対応をし, 違いを明らかにする。そのことが, たし算・ひき算の意味理解につながると考える。そこで, 文に合った絵を考える図的表現活動を取り入れ, たし算・ひき算の場面がとらえられるようにしたい。



(2) 児童の実態について

削除しています。

(3) 研究テーマとの関連について

研究テーマ「豊かな数学的コミュニケーションを通して、学び合う児童の育成一図的表現をもとに説明する活動を大切にしてい」に迫るため低学年段階として三つの児童像を設定している。一つ目は、「自分なりの方法で表現し、友達のを一生懸命聞く子ども」である。二つ目は、「問題に対して、自分なりの考えをもつ子ども」である。三つ目は、「友達との関わりを楽しむ子ども」である。これらの児童像を受けて、本単元における具体的な姿を次のように考える。

- I 求大や求小の問題で、自分の考えを数図ブロックや絵に表し、説明したり聞いたりする姿
- II 既習事項をもとにして、絵と問題文を対応させながら、求大・求小の関係をとらえて考える姿
- III ペアや全体で考えを説明し合う姿

また、これらの姿に迫るため、次の2点に留意して指導していきたいと考える。

① 図的表現活動の重視（具体的な姿II）

本単元では、問題文の中の数量をそのまま用いて式を立て、答えを出すことが予想される。また、児童にとって題意がとらえにくい問題である。そこで、問題文を絵に表わしたものを提示し、正しい絵を選ぶことで場面の理解を深めるようにしたい。求大の問題では、提示された絵の中に正解のものが含まれているよう設定する。選ぶという活動があることによって、なぜその絵を選んだのか理由を説明することとなり、どちらがどれだけ多いのかということを理解することができる。求小の問題では、提示された絵の中に正解の絵がないよう仕組んでおき、児童一人ひとりが問題文から正しい絵を導き出せるようにしたい。図で表すことも重視するが、たし算・ひき算の場面がとらえられるように「少ない」や「多い」が図でいうとどこになるか分かるようにしたい。

② 説明する力を身につけるための支援の工夫（具体的な姿I, III）

自分の考えを言葉にし、説明することは、児童の学年と実態を考えると苦手と感じる児童も多いと予想される。そこで、次の2つの支援を工夫することで説明することができるようにしたい。

1つ目は、文と図を対応づけながら説明することである。文をもとに絵をかいたり、説明する時に文に戻り、考えの根拠を示したりするよう繰り返し指導していく。文→図、図→文の行き来をすることで、自分の考えを説明することができるようにしたい。

2つ目は、ペアやグループなどの小集団で全員が自分の考えを説明する場を設定する。自力解決に時間がかかったり、解決に至らなかったりした児童も、分からないところも言葉にできるようにしたい。聞き手は、話し手の説明を聞いたら話し手の考えが説明できることを目指したい。全体の話し合いでは、一人で説明するのではなく、はじめの発表者の考えの続きを他の児童が説明できるようにし、みんなで考えを深めることができるようにしたい。

4 学習計画と評価規準

次	時	○ねらい ・学習活動	評価の重点				具体的な評価基準	表現モード
			関	考	表	知		
一	1	○求大の問題を解くことができる。 ・「～は～より多い」という場面で数量の関係をとらえ、問題を解く。	○			○	・数図ブロックや絵を問題と対応させながらたし算になることを考える。 ・求大の問題を解くことができる。	文→図
	2 本 時	○求小の問題を解くことができる。 ・「～は～より少ない」という場面で数量の関係をとらえ、問題を解く。		○	○		・求小の問題を操作活動を通して解決しようとしている。 ・求小の問題を解く方法を理解している。	文→図

5 板書計画

りんごとみかんがあります。

りんごは10こです。

みかんはりんごより3こすくなくいです。

みかんはなんこですか。

みかんがいくつになるかえにかいてかんがえよう。

絵①

りんご 7

みかん 3

絵②

りんご 10

みかん 10

絵③

りんご 10

みかん 3

↓

りんごは10こ

みかんはりんごよりすくなく

みかんはなんこ？

正答図

りんご○○○○○○○○○○○○

みかん○○○○○○○○

しき $10 - 3 = 7$

こたえ 7こ

えをかくとみかんのかずがわかるね。

類題

おにぎりと パンが あります。

おにぎりは 8こです。

パンは おにぎりより 2こすくなくいです。

パンは なんこですか。

6 本時案 (第一次 第2時)

目標	求小の問題場面を、絵図を使って解くことができる。	
学習活動	教師の支援	数学的コミュニケーション
1 学習課題をつかむ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> りんごとみかんがあります。 りんごは10こです。 みかんはりんごより3こすくないです。 みかんはなんこですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・わかっていることを明確にすることで問われていることがみかんの数であることが理解できるようにする。 ・既習の内容を想起しながら、本時の学習課題がつかめるようにする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> みかんがいくつになるかえにかいてかんがえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごは10個。 ・みかんの数がわからない。 ・絵にかいて考えよう。
2 絵をかいて考え、答えを求める。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を表す絵(誤答)を提示し、りんごとみかんの数の関係を捉えられるようにし、正答図をかいてみようという意欲づけを行う。 △解決の糸口が見つけれない児童には、ヒントカードを使って考えが進められるように支援する。 ○絵をかいて答えが求められた児童には、理由を考え、発表練習をするよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これはりんごが10個あるけど、みかんの数がちがう。 ・みかんはりんごより少ないはずだよ。 ・どの絵も違うよ。
3 自分の考えをペア、グループで説明し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> (予想される児童の考え) </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> ①り○○○○○○○ み○○○ </div> <div style="text-align: center;"> ②り○○○○○○○○○○○ み○○○○○○○○○○○ </div> <div style="text-align: center;"> ③り○○○○○○○○○○○ み○○○ </div> <div style="text-align: center;"> ④り○○○○○○○○○○○ み○○○○○○○ </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・式を立てている児童には、式の中の数字は絵でいうとどこにあたるかを問い、式と絵を対応させて説明できるよう導く。 	
5 全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵をかく活動を全体で確かめ、みかんは7個になることを確認する。 ・「3こすくない」を絵図の中に示し、ひき算になることを確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> えをかくとみかんのかずがわかるね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごは10個、みかんはりんごより3個少ないから7個。
6 類題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「～すくない」という問題では、ひき算の考えを使って考えることができることを確かめながら取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すくない」は絵にかくと減る(なくなる)からひき算。
7 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> * 求小の問題場面を正しい絵に表し、解くことができる。【表】(ノート・発表) ・本時までの学習を振り返り、単元のまとめができるようにする。 	